

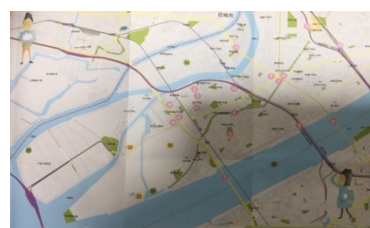
西淀川をゆく（続）

エコミューズ見学のあと、藤江徹・財団事務局長による「あおぞら財団が取り組む地域再生のまちづくり」と題したレクチャー。若いスタッフらによる独創的な活動がビジュアルで紹介され、財団 22 年の歩みを振り返り、これからの課題が提示された。地域再生のゴール、西淀川の未来はという問いかけが心に残った。それに関連する私の質問に対し、財団名誉理事長の森脇君雄さんが「思い」を語ってくださった。



レクチャーにつづき、猛暑のなか「西淀川フィールドワーク

マップ」を片手に西淀川のまちに出かけた。案内役は財団研究員の林美帆さん。林さん執筆「西淀川の公害教育」の論文を読んだことがあり、案内もわかりやすかった。



まずは「あおぞら苑」へ。ここは 5 月に来たことがある。写真はそのときに撮ったものだ。宮本憲一先生と森脇さんによる記念の碑を、参加者は感慨深く見つめた。



あおぞら苑から千北診療所、出来島小学校、国道 43 号線まで歩いた。そこからバス

に乗り、尼崎から西淀川の工場群へと進んだ。西淀川は尼崎と比べ、中小企業の工場が多いことがわかった。途中で「外島保養院跡記念碑」を眺め、ハンセン病患者の歴史に思いを馳せた。小山仁示著『西淀川公害—大気汚染の被害と歴史』などを思い起こした。

バスは財団が運営する「姫里ゲストハウスいこね&くじらカフェ」に着いた。古民家風のカフェは、西淀川の歴史を感じさせた。ここで懇親会が開かれ、早めに退席する前に、今日の感想などを述べさせてもらった。西淀川区のお隣、淀川区に住むことになり、これまで以上に「あおぞら財団」との関係を深め、学んでいきたいと。

懇親会で宮本先生や森脇さんらの感想を聞いたかった。帰宅してから、あおぞら財団機関誌『りべら』2016 年 11 月号の宮本先生インタビュー「公害地域再生に大切な視点」を読み返した。私の問題意識とも重なるので紹介したい。

「西淀川の公害地域再生は、西淀川区だけの問題ではない。西淀川大気汚染公害ではベイエリアを展望する形で裁判をおこした。公害地域再生は、本来であれば、ベイエリアの全体をどういう形で公害地域から再生していくかという課題がある。……今、夢洲での万博が計画され、大阪湾カジノ構想の問題が上がってきている。ベイエリアはそういうものではないという批判が必要なのではないか。ベイエリア全体の展望として環境再生の視点が必要だと考えている。」

(2018 年 7 月 20 日)